

連合赤軍関係文献リスト		2012年～2017年（それ以前については、会のサイトにあり ※注1）			
著者	タイトル	内容	出版社	刊年	発行年月日等
1-1 当事者【単行本】					
丸岡修	丸岡修自述：元・日本赤軍軍事指揮官告白録	目次：黒の告白/1.自分史/2.重信房子公判丸岡証人出廷証言/3.遺稿/4.関係者の証言：足立正生/浴田由紀子/重信房子/戸平和夫/山本万里子/弁護士 大谷恭子/ 年譜証言連合赤軍 1-10号の主要記事に書き下ろし記事を加えて発行 初版は1984年	風塵社 皓星社 彩流社	2013 2013 2014	新版
連合赤軍事件の全体像を残す 植垣康博	証言連合赤軍（1-10号集成版） 兵士たちの連合赤軍				
1-2 当事者【単行本以外】					
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 1 大菩薩への道	元赤軍派政治局員、八木健彦氏のインタビュー	情況出版	2004	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 2 彼らはいかに生きたか	2003年2月23日に開催された「連合赤軍殉難者追悼の会」の記録。	情況出版	2004	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 3 獄中の指導者	元赤軍派指導者の塩見孝也氏のインタビュー。出獄間もない1990年3月10日に行われた。	情況出版	2004	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 4 毛沢東派の潮流	元ML同盟の指導者、豊浦清氏(故人)のインタビュー。	情況出版	2005	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 5 25年目に跡地を巡る	1997年5月に実施した慰霊の旅の記録。	情況出版	2005	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 6 東大闘争をつきぬけた先に	東大闘争の指導者の一人で、大菩薩事件の後の赤軍派指導部の一端を担った川島宏氏の話聞いた。	情況出版	2006	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 7 革命左派の成立	横浜国立大学出身で、1970年は名古屋で活動し、71年の夏に逮捕された雪野建作のインタビュー。	皓星社	2009	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 8 棺を覆いて	東日本大震災の余震の続くなか開催された「永田洋子を送る会」の記録。	皓星社	2011	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 9 四十周年殉難者追悼の会	2012年2月25日に開催された「殉難者追悼の会」での全発言を収録。	皓星社	2012	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 10 浅間山荘四十周年シンポジウム	当事者から若い世代まで、多くのパネリストがー当事者世代が語る、連合赤軍事件が残したもの、若い世代にとっての連合赤軍の三部構成で議論を展開。	皓星社	2012	
連合赤軍事件の全体像を残す	証言連合赤軍 11 離脱した連合赤軍兵士-岩田平治の証言	自発的な意思で「山」から離脱した数少ないメンバーの証言。	皓星社	2017	
永田洋子	連合赤軍・永田洋子から瀬戸内寂聴へ 私たちの『殺害』の誤りが決定的なこと	86人のドラマ 大型企画 運命を変えた手紙；事件の渦中の男と女	文藝春秋	2011	2011-09
重信房子、大谷恭子	執行停止申し立てはなぜ認められなかったのか 元日本赤軍・丸岡修さんの死と刑務所の獄中医療一家族のもとでという最期の希望さえ拒否された背後には		創	2011	2011-08
雪野建作	昭和47年 連合赤軍 永田洋子が「切るしかない」	90周年特別企画 日本が震撼した47大事件の「目撃者」	文藝春秋	2013	2013-02
4 警察・司法関係者等					
佐々淳行	日本赤軍とのわが「七年戦争」：ザ・ハイジャック	「ザ・ハイジャック」(2010年刊)の改題	文春文庫	2013	
本島一輝	日本赤軍を追え!	17巻7号 立花書房【編】	治安フォーラム	2011	
菊野樹太郎	日本赤軍史略	22巻9号 立花書房【編】	治安フォーラム	2016	
5 関係者等					
高部務	新宿物語	進藤隆三郎の知人の著作 新宿フーテン風月堂、新宿歌舞伎町通り、故郷の背中米泥棒の菊夫ちゃん、地下街の街頭詩人、山谷と新宿の路上で、酒とハイチャンで乾杯、新宿で生まれた、ピンク女優、フーテン赤軍派兵士の死	光文社	2014	
重信メイ、阿川佐和子	阿川佐和子のこの人に会いたい(第1025回)	八歳の誕生日に、「私たちは日本赤軍という組織のメンバーなの」と打ち明けられました。	週刊文春	2014	2014-07-10
6 ジャーナリスト・学者等					
亀井静香	政権建て直しのキーマン 亀井静香が爆発-	「連合赤軍」の民主党では日本はつぶれる。即刻、内閣改造して自公社を取り込み	週刊朝日	2011	2011-03-04
瀬戸内寂聴	緊急インタビュー 連合赤軍リンチ殺人事件から40年、永田洋子死刑囚病死の	誰もが批判するあなたを放っておけなかった理由	婦人公論	2011	2011-03-22
鈴木邦男	三島由紀夫と野村秋介の軌跡(70)連合赤軍事件とは何だったのか---永田洋子		月刊times	2011	2011-06
『週刊金曜日』編集部編	70年代：若者が「若者」だった時代		金曜日	2012	
鈴木邦男	言論の覚悟 連合赤軍40年		創	2012	2012-03
武田徹	戦後史の風景(4)連合赤軍「あさま山荘」：軽井沢・榛名		新潮45	2012	2012-07
世界思想	検証・連合赤軍事件40年(上)	独善的「世界革命」理論で『悪霊』の陰惨な結末招く	世界思想	2012	2012-04
上村文人	大江健三郎『河馬に噛まれる』論：連合赤軍事件との関係性を中心に	東京都立大学国語国文学会 編	都大論究	2012	2012-06
世界思想	検証・連合赤軍事件40年(下)雛型となった日本共産党 暴力革命への夢は棄て		世界思想	2012	2012-05
森達也	リアル共同幻想論(第60回)屈折した言い方だが連合赤軍がうらやましい		経	2012	2012-06
雨宮処凛	ドキュメント雨宮・革命(第50回)	42年ぶりの「原発ゼロ」と連合赤軍事件40年	創	2012	2012-07

柳美里/山本直樹	対談 柳美里「作家」×山本直樹「マンガ家」	連合赤軍事件40周年と震災後1年	創	2012	2012-03
木全公彦	連合赤軍 マンガ「レッド」は、失敗と挫折を繰り返す青春群像劇。：漫画家 山	特集 1972年 政治の季節から荒井由実へ。	東京人	2012	2012-09
鈴木邦男	三島由紀夫と野村秋介の軌跡(第87回)連合赤軍事件の現場を歩いて	「あさま山荘」で考えた事件の本質と集団狂気を醸成する人間心理	月刊times	2013	2013-02
瀬戸内寂聴	それでも人は生きていく：冤罪・連合赤軍・オウム・反戦・反核	折々の評論、エッセイ、随筆	皓星社	2013	
鈴木邦男	思想の混迷、混迷の時代に	鈴木邦男ゼミin西宮報告集；Vol.2	鹿砦社	2013	
四方田犬彦,平沢剛編	若松孝二反権力の肖像	四方田犬彦他、ローランド・ドメーニ、渋谷哲也、平沢剛、沖島勲など	作品社	2013	
鈴木邦男	連合赤軍は新選組だ！：その(歴史)の謎を解く		彩流社	2014	
千坂恭二	思想としてのファシズム：「大東亜戦争」と1968	中野正剛、内田良平など戦前の思想家から1968年以後の運動と三島由紀夫を論じる	彩流社	2015	
原潤勝仁	若松孝二と赤軍レッド・アーミー	バイレイト取材で岡本公三と会い、北朝鮮でよど号メンバーと会う。その他、日本赤軍や東アジア反日武装戦線のメンバーと面会など、この数年間の活動の記録。	情況新書	2016	
吉本隆明	吉本隆明資料集	連合赤軍事件をめぐる、吉本隆明年譜 宿沢あぐり 編	猫々堂	2016	
週刊新潮	服役27年「浦島太郎」で戻った元連合赤軍「植垣康博」未完の原稿	60周年特別ワイド「十干十二支」一巡りの目撃者	週刊新潮	2016	2016-02-25
西部邁	ファシスタたらんとした者(5)	連合赤軍事件で大衆批判に「起ち」、外国の地で保守擁護に「感わなかった」	正論	2016	2016-02-25
青木理	政治 時代を読む ルポ45年目の連合赤軍(上)	「同志」殺しは何故起こったのか	AERA	2017	2017-04-17
青木理	政治 時代を読む ルポ45年目の連合赤軍(中)	正当化された「革命」のための暴力	AERA	2017	2017-04-24
青木理	政治 時代を読む ルポ45年目の連合赤軍(下)	過剰な「正義」が無残な暴発を遂げた	AERA	2017	2017-05-1,8
三浦小太郎	朝鮮中級学校『朝鮮歴史』を読む 民生団 抗日戦争の連合赤軍事件	特集 朝鮮中学校と補助金8億円 北朝鮮収容所国家からの解放を目指す理論誌	光射せ!	2017	
8	散文・対談等				
四方田犬彦	きんようぶんか オオカミ小僧の世界一周紀行in PARIS(vol.03)	日本赤軍をめぐる2本のフィルム	金曜日	2011	2011-07-22
週刊新潮	元日本赤軍「岡本公三」がレバノンでハマった「スカイプ」	ワイド 地獄を見た「男と女」	新潮社	2011	2011-10-13
小林蓮実	塩見孝也、シルバー世代の仲間たちと夢見る現場からの“革命”	22巻50号 元赤軍派議長、労働運動に燃える	金曜日	2014	
但馬オサム	戦後左翼に学ぶ暴力入門(最終回)新左翼から過激派へ	二人の女、二つの「赤軍」	ジャパニズム	2015	2015-06
金子喜三	連合赤軍事件の報道と少年法——報道の主体性確立に一段の努力を——		國士館大學政経論叢	2016	2016-03-22
クライン孝子	情報戦略：あまりにも大きな日独間の隔たり	西独赤軍と東独シュタージとの連携暗殺録 西部邁事務所 編	表現者 = Espresso	2016	2016-07
9	フィクション				
金井広秋	死者の軍隊：連合赤軍の彼方に 上	長期間にわたって	彩流社	2015	
金井広秋	死者の軍隊：連合赤軍の彼方に 下	文献あり	彩流社	2015	
桐野夏生	夜の谷を行く		文藝春秋社	2017	2017-04-07
桐野夏生	最新刊『夜の谷を行く』で描いた「連合赤軍」とは 桐野夏生インタビュー		週刊朝日	2017	
12	漫画				
山本直樹	レッド7	両派は深い山中で共同軍事訓練を行うが、その場で女性メンバーへの批判が始まり、後の「総括」の第一歩が始まる。	講談社	2013	
山本直樹	レッド8	赤色軍と革命者連盟は急接近し『赤色連盟』を結成。彼らは、榛名ベースへ続々集結するも、総括要求はエスカレートしつつに伊吹が力尽きて死に至る。	講談社	2014	
山本直樹	レッド最後の60日 そしてあさま山荘へ 1	1972年1月3日までの山岳ベースにおける総括要求、仲間内のリンチ、そしてメンバー二人の壮絶な“敗北死”。	講談社	2015	
山本直樹	レッド最後の60日 そしてあさま山荘へ 2	立て続けに3名の仲間が死亡。さらに天城、黒部一郎、磐梯の3名も緊縛される事態とな	講談社	2015	
山本直樹	レッド最後の60日 そしてあさま山荘へ 3	数日のうちに6人の死者。さらに幹部だった安達(あだち)には明確な“死刑”の宣告がくだ	講談社	2016	
山本直樹	レッド最後の60日 そしてあさま山荘へ 4	恋人や、自分の子供を身ごもった女性までもを総括にかけてしまう不条理。次第に狭まる警察の包囲網。	講談社	2017	

※注1 <http://www.renseki.net/docs/bibliography1.pdf>